京城新聞

官吏賞罰論

京城新聞

總ての事蹟の擧ると擧らざるとは首腦者たる人物の如何に依るは勿論なれども、實際其事務に鞅掌する部下の良否も亦至大の關係あり、故に部下に其人を得ることは事蹟を擧るに於て最も肝要なる事なりとす、事務章程服務規律の如きを以て其行動を戒むれども、是れ唯表面を戒飾するに過ぎずして其人の心理を支配する能はず、之が爲に服務規律の如きは往々形式に流るゝ傾向ありて唯夫れ時間の奴隷たるが如き奇觀を呈することなきに非ず、此等は法の弊所にしてこが法を施するが如きは恐なれども、[illegible]物を擇せざる可らず、所謂適材を適所に配するを必要とす、然れども多數の人間を集むる場合には一々適材のみを擇するが如きは言ふ可くして行はるべきものに非ず、然らば如何にして多數の部下をして活きたる働をなさしむる乎、之れ古より各君賢相の憂慮する所なり、吾で其本能を盡さしむるの道は賞罰を明にするの外あらず、其人の爲せる事務及行爲を判して其勤惰能不能に對して賞罰を行ふにあり、其能を擧げ不能を黜くるは事蹟を擧るの道たるなり、如何に能力ありて活きたる働をなすも、如何に不能にして努めざるものも同一にして其間何等の賞罰なくんば人心に惰氣を生ずるは自然なり、紀律は爲に荒壞して事務は茲に堆積することとなる、官廳にあれ會社にあれ其首腦たる者は深く此點に注意せざれば無能者跋扈して有能者怏々として樂まざるの結果を來たすなり、殊に官廳には此弊害の多き觀あり、余輩は韓國に於ける邦人官吏の現狀を見て此感の深きを禁ずる能はず、今日の儘にして荏苒經過すれば韓國化するに至るの憂なきを保すべからず、斯る現狀の中にも余輩の目睹して最も感服するの人も少なからず、宜しく今日に於て之が賞罰を明にせざれば其事蹟に於て憂ふべき結果を見ん乎、統監府の設置せられて以來茲に三年を經過す、新協約締結せられて一年有餘を經過せり、此間に於ては其能不能も大略は判別せられ得る筈なり、其勤惰も亦從て判明すべき筈なり、然るに此間に於て未だ賞罰の行はれたるを聞かず、之れ其人の精神を奬勵して事蹟を擧げしむる所以に非ず、殊に保護政治として韓人を指導し範を垂るゝ上に於て最も此事を必要なりとす、韓國官吏の手前邦人官吏の黜陟を行ふるに足らず、却て賞罰を明にして韓人に示すに於ては帝國官吏の紀律嚴にして賞罰の明なるに感ずべし、幸に年末に際して伊藤統監諸任せらる、此際を機として嚴正なる賞罰をなすの必要あらん、伊藤公は常に任地に不在勝ちにして此間の消息を或は知悉せられざる事もあらん、或は公の苦勞人たる知りて知らざる態を裝ふやも知る可らずと雖も、若し夫れ公にして眞に斷行の意ありとせば余輩亦其材料を提供するに吝ならず、余輩素より多くの官吏諸氏に怨怒なし唯保護政治の實蹟を擧るに於て此事を以て肝要なりと感ずるにあるのみ、

漫言

渡邊不言

生存競爭上人類の生活は唯だ夫れ胃と腑の問題にあるか人は神にあらず生物界の一種なり故に生物界全般を通ずる榮養の保給を欲するは如何なる聖人と雖も免る可からざ[illegible]孔子曾て曰く[illegible]富まさん哉して而して後之れを教へん[illegible]たるが如き又彼衣食足つて禮節を知るといふが如き皆是れ胃の腑の問題なり世の爲政者たるもの深く茲に注意焦慮せざるべからざるなり

人類の生活を自然の競爭に放任して省みざらんか富者は益々富、貧者は益々貧窮に自然の階級上貧者は富者の奴隷たるを免れざるなり而して此自然的制度たるや一世一代に止まらずして末世末代まで盡くることなし於是か極端なる百姓一揆的の社會主義起らざるを得ざるなり

國家の生產力を減耗するものは富者と貧者との調和の取れざるに在り傭主と被傭人との相反目するにあり之れを救濟するの道一に爲政者にありと雖も余は又た宗教家諸君の力に待つこと極めて多きを信ずるもの也世人動もすれば曰く宗教は不平家の不平を漏すの安全瓣なり苟も人生の意義を解したらんものには不必要なりと其意蓋し愚者に必要にして智者に不必要なりとの意ならんも余は寧ろ之れに反して上流人士に宗教の必要を感ずるものなり

佛敎の因緣說は人々の元氣を消沈せしむるかの如き嫌ひなきにあらざるも世間多くの人は如何なる不運に遭遇するも前世の因緣とあきらめ天を怨みず人を咎めず至極平穩なるに上流社會の人々が非人乞食の徒を見てこれこそ我が兄弟なり姉妹なりと手を引ひて中心心よく一宿せしむるものあるを聞かざるなり甚だしきは曰く此等は社會の生產を害するものなり自己の怠慢自から之を招けるなりとなして顧みざるもの比々皆是なり然れども何ぞ知らん此等悉く自己の怠慢より招けるものゝみならんや時に或は天災より時に或は病疾より時に或は自然競爭生活より來るもの十に八九なるを知らんや富貴なる人に一點の宗教心あらば此金錢は決して我の金錢ならず神の金錢なり此智識は決して我の智識にあらず神の與へ給ふの智識なりと確信するなるべし故に我が智に誇つて他人を愚物の如く木偶の如くせざるなり己れが金錢の有るに任せて婦女の操を

五月闇

（七十）　河合柳葉

濟川の娘菊野は、今日も御室家の令孃露子の供をしながら、華族女學校に入つて、今[illegible]

には奧女中共が三四人、何か容易ならない事でも起つたやうな樣子で、笑ひ顏一つする者もなく密々と囁き合つて居るゆゑ、さて妙な現象だと思ひながらも露子を其室まで見送つて、軈て自分の室にさて定められた、露子の室とは長い廊下を隔てた一室に行かんとした時、平常から中の宜い、お幾と云ふ今年十七になるお小間使が、ちよこ〳〵と後から驅けて來て。

「菊野樣、只今お歸りなさいましたか、實は先刻からモウお歸りなさる時分だと思ひまして時計を眺めながらお待ち申して居りました。外でもございませんがね、早く貴方にお知し申したい事があつたもんですからね。」

菊野は振返つて。

「然う、何か面白いこと……。」

「いゝえ、那樣事ぢやございませんの、實はね……。」

と、四方に憚る小さい聲で。

「貴方のお父樣はね、今日限りお暇が出ましてお宅へお歸りなすつたのでございます、それお歸りかけに私に有仰るには、菊野が學校から皈つて來たら些とお暇を願つて歸つて來るやうに云つて下れと、信樣に有仰つてお歸り遊ばしたんですよ。」

此の意外の辭を聞いた菊野は、忽ち顏色の靑くなるまで打驚いて、數々と頷へながら

「……然う。どうも有難う……では早速歸つて來るわ。」

「何かお話しなさる事がありなさるのでございますよ、早く歸つて御覽なさいまし。」

[illegible]菊野は令孃露子に暇を願つて、[illegible]歸つて往つた。

談話燧つて濟川道恭は、辭を盡して諫言したが效もなく、果は家令の職を取上げられて暇の身とさへなつたから、殘念ながら悄々と我家に歸つた。罷り間違ば、家令職は愚か切腹しても諫言しかねまじき良人の氣性を知る妻の時子は、首尾如何にと、案じ煩ひつゝ待受けて居ると、午後二時頃かとも思ふ頃、力無げな樣子で歸つて來たゆゑ、大方不首尾と察しながら。

「お歸りなさいまし、大層今日はお早うございますね、首尾は如何でございました、どうか御前樣がお聽容下さりやよいかと、それぱかりを案じ通して居りました。」

と、心配さうに打問へば。

「いやもう、眞個呆れて物も云はれん位だ、平常は何を申上げても、私の云ふ事は、一つ可厭と有仰つた事のない御前樣が、今日ばかりは何と申上げても御承入れなさらないばかりか、非常な御立腹で、到頭お暇を出されて歸つて參つたが、どう考へて見ても御正氣の沙汰とは思へない程だ、能く〳〵天魔に魅入れ遊ばしたのだらう、如何に思つても是非のない次第だ、どうかお家に騷動でも起らなきや、宜いが、此上は爲方がない、主は主たらずとも臣は臣たるの道を守つて、餘所ながら忠義を盡すより外に致方がない、實に世の中の事と云ふものは思ふ如くにならないもんだね」

「では、お承入れ遊ばさらない上に、お家令職のお暇……。」

折しも娘菊野は息は逸ませしながら歸つて來た。」



東京電報 (廿七日發)

▲竹田宮妃御着帶
竹田宮妃殿下には昨年一月を以て御姙娠九箇月に渡らせられ御着帶式御擧行の筈なり

▲戰役に關する褒狀
戰役に際し船舶其の他軍需品供給の功あるもの百七十一名に對し褒狀下賜せらる

▲政友會と滿韓
政友會は滿韓林業に關する件滿韓鐵道に關する件[illegible]

▲鐵道院可決
樞密院會議にて鐵道院官制可決せらる

▲競馬聯合會の起訴
[illegible]競馬聯合會は[illegible]取り馬券[illegible]提起せんとす

雜報

●統監邸訪問
中樞院議長金允植及永宣君李俊鎔は二十八日午前に米國より日本大博覽會の爲めに派出せられたるブレット氏は二十七日夜着城二十八日午前伊藤統監を官邸に訪問せり

●善隣商業學校開校式
善隣商業學校開校式は既報の如く本日午後一時より同校庭前に於て擧行せられたり來會者は伊藤統監、曾禰副統監、各大臣次官其の他内外文武官並に日韓有志者生徒父兄保證人等約五百名にして市原理事の擧式の辭後監事の同校創立の由來、大倉喜八郎氏の學校基本金寄附の趣意、伊藤統監の訓示演説、李總理、李學相、金允植氏等の祝詞及び生徒總代の祝辭あり終つて本宿校長の答辭を朗讀し式を閉ぢたるは午後三時半夫れより來賓は一同日本人倶樂部の祝宴會に案内されたるが近來稀れなる盛會なりき當日伊藤統監がなしたる訓示演説の要領は如左
商業は人類生存上殊に世界共通の利益を圖り此の利益によりて文明の發達に資する上に必要なり、我東洋にて世界貿易の大に發達せしは僅々五六十年來の事なり歐州諸國に於ても其の發達を來せしは二三百年を出でずして歐米文運の發達に從ひて東洋に及びたるものなり、商業政策に關しては世界各國夫れ〳〵努力しつゝあるも商業は互に利益を圖る事を努めざる可らず今日は商業は啻に各國相互に相利益する耳ならず以て世界の平和を維持しつゝ益々其の發達を期せざる可からず商業は専ら個人に必要なるのみならず國家に必要なり殊に其の發達を圖るの必要あり歐米諸國は法制の上には商法を設け國際條約も商業の自由航海等の定を設くる等最も重きを置けり此の重要なる商業の發達は商業教育に其の關係を置かざる可らず幸に此の目的を以て創立せられたる本校の生徒は熱心學業を修め卒業の上は大にしては國家のため小にしては個人の爲め修得せし所を應用して商業の發達を期する事を努むべし云々

●鐵道院官制其他可決
鐵道院官制軍事救濟令は二十七日樞密院に於て可決せられたり

●愛國婦人會と水兵慰問
[illegible]日乘組員に對し韓國風景及風俗の繪葉書六百組を送呈して慰問の意を表したりと云ふ

●財務監督局長會議
既報の通り財務署監督局長會議は本日午後十時より度支部會議室に開催され各財務監督局長出席し度支部各局長列席の上任大臣及び荒井次官の訓示演説あり正午散會したるが尙月曜日より引續き開會する筈なり

●度支部大臣の訓示
別項本日の財務監督局長會議に於ける任度支部大臣の訓示演説は左の如し
諸君今[illegible]本會議を開きたるは緊切なる諸[illegible]問[illegible]有りたるを以てなり此の年末に當[illegible]際如斯[illegible]路を來參せられたるは本大臣の深謝する所なり
惟ふに稅政の原則は國民の負擔を一般平等ならしむるに在るのみならず兼て又課稅物件に至つても一般に普及せしむるに在り由來我國の稅政は此れを違反したるもの多く常に遺憾とする所なりしに今日百度維新の時に當り稅政も漸次刷新の時機を得たるは國家のため大に慶賀する所なり今回會議の諸問事項は諸君の席上に分配したれば更に說明を要せずと雖も其の大要を述ぶれば即ち國庫の收入を增加すると同時に國民の負擔を均一ならしむるに在り請ふ諸君は此意を存して深察し平常各自研究せられし所を以て意見を交換し此の會議の結果の良好を得る方策を期せられん事を
更に諸君に一言すべきは徵稅機關改良以來其の成績の如何を觀察するに其の改良機關を設立したるの日尙淺きに拘らず又此の過渡の時期に際する諸多の障碍有るに拘らず昨年の收入に對照するに比較的良好の成績を擧げ得たりと謂ふべし此れ專ら諸君の勉勵供職の結果と深く信じて疑はず然りと雖も此の過度の時に際し地方民の誤解に基く批難は少からずと聞く又稅政の弊瀆改む可きもの尙多ければ諸君は愈益々奮勵して舊來の弊習を一擧掃盡し徵稅機關の基礎を確定し將來の發展を期せられん事を深く冀望する所なり

●獨逸エフ★ー雜誌の所載
獨國中にビスマークの紀念催及紀念碑の類二千モスコーに寺院の數千八百鯨の速力一時間十二哩北米合衆國には伯林と名附る町三十巴理と名附る町は二十三倫敦と名附る町十三人間の腦髓氣泡數七千六百萬個基督教信徒一億八千万普通の象の一匹の象牙五十磅土耳其には一千年以上のオリーブ樹有

●牧の島船渠の其後
牧の島に船渠を新設すべく當港は白石工學博士により五六種の設計圖案を調製したる[illegible]

●坂出技師の演說(續)
[illegible]
三)次に海底の地質に關係を有することが多い之れは主として錨留りの部合で最もよいのは泥深い砂を交へたる地質を好む所で大い礫とか岩礁とかは兎角錨地として危險であります又港内淺深の場合にも泥砂が第一に始末によいのです
(四)港の面積も廣からんことを要します港内に數多の船舶を入るに於て最も必要なる

治外法權
親の心子知らず
[illegible]ト[illegible]知らず扨留守中[illegible]れ世話さま、伊勢[illegible]經營[illegible]水[illegible]間留守をした[illegible]主が戻つて[illegible]中將に女房の世話までして呉れた友人に禮を云ふのである▲統監伊藤公の先般歸朝に際するや彼は部下の諸員に向つて公不在中の心得に就て縷々說き聞かし特に直參子分の者等に向つては親身も及ばぬ信用を置いて萬事を托して行かれたのである▲鬼の留守に洗濯をするは余まり感服すべきことでは無いのである、併しソレモ通り一遍の主從なら仕方が無いさして世間は大目に見るのである、ダガ苟も親分となり子分となりし間に於ては斯る他人ゲ間敷仕打は決して許されて居らぬのである▲昔から良く言はるゝことだが親の心子知らずで親が子を思ふ程には子は親を思つて居らぬのである其證據には統監の不在中に世間から統監の直參子分と目さるゝ人にして親分の言躍を無視し親分の顏へ泥を塗る樣な所業をしたものが有るに因つても明かであるのである▲泥を塗らうが塗るまいがソレは其人の勝手であると云へば夫迄である、併し親分の顏にして汚るれば統監政治にも其汚れが及ぼすことは必定であるのである▲聞く統監には今度歸任してから子分の者等に向ひ扨留守中は何角骨折であつたと御諚を下し玉はつたソーである、嗚呼如何に苦勞人の統監でも留守中の事は御存じないと見江て、下す御諚もドーやら「ト[illegible]ツ知らず的」になつて居る樣である、

條件なれども餘りに廣きは却て港内風波の際危害が伴ふ次第で但し軍港の如き十二分に暫時に各艦艇が間隔をとる必要のある場合は一般に廣きを好むは自然の結果で例へば鎭海灣とか佛國のシャーブール軍港とか英のプリマウスをかは何れも二三百万坪の水面を持て居りますが之等は別として商港としては水面の廣濶より寧ろ港内の設備に重きを置き船舶の岸接碇繫其他の方法によれば[illegible]船舶計の面積をとらずして整頓の出來る譯故無謀に大なるを好まぬ次第であ[illegible]

[illegible]數港(水面七十六万坪)馬山浦(水面五十六万坪)又は濟堡(水面四十四萬坪)に比しますれば船の爲めに場所が狹いとは申されますまい
(五)次に港としては土砂を流し込む河川は禁物にて同時に潮流其他の爲に海に漂ふ砂のある港は最も忌む所でありまして又タイダル、ハーバーを除いては潮の干滿の差大ならざるを好ましいことゝ存じます
(六)港内の設備としては繋船用浮標又は[illegible]抗を設けてありつて繋留船は自己の錨鎖を下さずして之に繋ぐの便をつけて港内の秩序の立つ樣にすることも一つ
(七)又港の各關には船渠や係船場があつて[illegible]の修繕其他[illegible]の所[illegible]も是非一つ[illegible]ないといけません
(八)又港の一方には石油とか其他危險物を揚下する一定の場所を卜して毫も港の他の部分に危害のない樣の設備も入用でありましよう
(九)其次に港より背面の交通例へば道路又は鐵道か四通八達致し奥の方にある製産地若くは内地の消費地に交通自在にして安全に而かも經濟的に物資の運輸が出來る樣になつて居らなければなりませぬ御案内の通り海運は費用誠に安いが陸運に要する費用は莫大なもので此背面の設備か伴わねば港はいくらよくても駄目であります)未完

●湖南鐵道と全州觀察使
湖南鐵道會社の鄭[illegible]準氏が過日來全羅南北忠淸南道に出張し同鐵道株募集の爲め奔走し右地方の觀察使其他駐在郡守を說きて强制的に人民に應募を勸誘せしめつゝありとの報達したるより政府は右地方觀察使に訓令を發し一切關係すべからざる旨諭したる由なるも全州觀察使李斗璜氏の如きは最初より同鐵道の爲めに何等斡旋を爲さゞるのみならず人民に干涉して强制的に株式募集に應ぜしむる等の事實は全然無根の由なれば右は何等かの誤傳ならんと云ふ

●光州輕便鐵道敷設說
先頃來光州榮山浦間に輕便鐵道敷設の風聞ありしが經濟上の收支如何あるべきかと其の成否を疑ひ居りしに頃者聞く所によれば同鐵道の發起は觀察使を中心として二三郡守等の計畫せるものにて同株式募集の如きも全羅南道州二郡の富豪中に普く强制募集の案を立て既に數次之れが勸誘を試みたる由なれども如何せん當年度の不景氣に加ふるに暴徒橫行の今日折角の豐作米をも販賣する能はず上納金の調達にさへ困難せる地方民は到底株式の募集に應ずる能はざるのみか官權を利用して强制するの非を難ずるものさへあり中には長いものには捲かれよと泣々應募する[illegible]斯くては折角の[illegible]も人民の怨府となる不結果に了らざるべき

●徵兵身體檢査に關する公示
明治三十九年勅令第三百十八號に依り第六師團管下左の軍隊に於て明治四十二年度徵兵身体檢査を行ふ

檢査地	軍隊
鏡城	步兵第四十五聯隊第三大隊
北靑	步兵第六十四聯隊第一大隊
咸興	野砲兵第六聯隊第二大隊
元山	步兵第六十四聯隊第三大隊
龍山	步兵第十三聯隊第二大隊
平壤	步兵第二十三聯隊第一大隊
安州	步兵第二十三聯隊第三大隊

一、徵兵身体檢査を受けんとするものは左の雛形に依る願書に戶籍謄本を添へ明治四十二年二月十日迄に前項軍隊に願出づべし
但願書は必ず二通を要す戶籍謄本を右期日迄に差出し難き場合にありては先づ願書のみを差出し謄本は追て差出すことを得
二、願書を出したるものは其隊長より許可證を受け三月盡日迄に檢査地に到り檢査[illegible]隊に屆告すべし
三、[illegible]令狀に示す日に於て檢査を受くるものは當日本人の寫眞(最近撮影のものを)携帶し檢査員に差出すべし
五、徵兵令第十二條により內地部隊に現役に服する事を出願し又は一年志願兵を(學術檢査を要せざるものに限る)志願せんとするものは三月盡日迄に第一項の隊に願出て身体檢査を受くることを得其願書は徵兵身体檢査の願書に準じ戶籍謄本及寫眞は檢査前に差出すべし
明治四十年十一月 第六師團長 男爵 西島助義

徵兵身体檢査願
本籍何縣何郡……番地
在留地韓國何道何郡……番地
(何年何月何理事廳若くは何々民團役所へ屆濟)族籍職業
氏名
何年何月何日生
希望檢査地(何地)
明治四十二年度徵兵適齡に付何地に於て徵兵身体檢査を受け度候間御許可相成度此段奉願候也
年月日 氏名 印
隊長宛

●學部大臣の招宴
李學部大臣は善隣商業學校監事大倉喜八郎氏同理事市原盛宏氏監事俵孫一氏等を主賓とし其の他李總理大臣趙農商工部大臣木內同次官閔泳徽李鍾洪李鳳來の諸氏を明廿九日午後一時より明月館に招待す

●警官の會計事務練習
內部警務局に屬する警察官練習所にては十月一日より全國各警察署會計事務主任二十一名を召集し會計事務に關する練習を開始せしが今回終了したるを以て昨日より修了試驗施行中にして更に明年一月十日頃より第二回練習生を收容する筈にて各警察署より約三十名を召集し二ヶ月間會計事務の練習をなさしむる由

●民團豫算の調査
四十二年度京城民團に屬する各學校及病院等の歲出入の豫算は目下各所より民團に提出し主任の手許にありて之が調査中の由なるが來[illegible]中には大略の調査を了すべしと云ふ

●民團稅未納と令狀
京城民團は十二月一日第三期納稅告知書を發布する筈なるが[illegible]下日々吏員を特派して督促令狀を交付しつゝあり

●漢江航路の保險交涉
仁川航海業者の希望を容れ帝國海上保險會社仁川取扱店にて漢江航路船に對して保險契約を締結することに決し曩に同社本店より仁川取扱店に向け往航四十錢復航三十錢の率にて契約を結ぶべしとの回答ありたるが仁川取扱店にては大阪行にしても約二十錢位なるに僅々龍山まで四十錢の高率を支拂はさるべからざれば荷主の契約を申込むもの[illegible]なきを豫想し更に本店に交涉を重ね[illegible]目下漢江航路は結氷期に近づき航行全く杜絶したるを以て同取扱店にては來春結氷解けて航行始まらんとするに先ち本社と交涉して更に率を引下げ同航路船の安全を計る筈なりと

●仁川倉庫界の現況
仁川倉庫界の現況を聞くに同地に於ける廻米は先月以來日々增加し來りたるも其の大部分は卽時に輸出せられ又は京城仁川にて當用向精米に消費せらるゝを以て昨今同地に停滯する米穀は極めて少なく從つて倉庫に入庫するもの殆んど皆無の姿なれば目下在荷は僅々五百個あるのみなるか雜貨は之れに反して在庫品頗る多く繩叺精酒烟草等其他合して約五千五百個ありと云ふ

●仁川商議總會延期
一昨日午後七時より開會する筈なりし仁川商業會議所定期總會は出席人員定數に達せざりしを以て流會となり來る三十一日更に召集することにしたりと云ふ

●暴徒討伐
三日夜以來藥水亭方面に賊を追跡せし大隊長の率ゆる追擊隊は遂に其賊の踪跡を失し尙賊は長城西北の山中に逃走したる形跡あるを以て少尉以下廿一名を該地に派遣し討伐をなさしめ大隊長以下は光州に歸還せり

●鴨綠江連絡切符發賣中止
鴨綠江は二十七日渡船場の兩岸結氷せし結果滿韓鐵道の連絡船の渡船頗る危險なるを以て鐵道管理局にては渡船切符の發賣を中止せり

●岡運輸部長の歸任
曩に滿州及北京鐵道視察中なりし岡運輸部長竹內屬は右の視察を了し二十八日夜歸任せり

●仁川の蒸氣喞筒
仁川民團注文の蒸氣喞筒は既に東京にて竣工なしたるにつき同地を發送せる由なれば其到着期は遲くも來月下旬頃なるべしと

●仁釜間電線復舊
仁川釜山間の直通電信線は再昨日より故障ありて全く不通となり居たるが昨朝より回復したりと

●木杯下賜
馬山尋常小學校建築費寄附の際を以て三隅田持門鎭南浦敎育費寄附の際を以て安田不久丸鹿子木久雄同教育用具寄附の廉を以て馬場嘉八郎氏に統監より二

●警察官の任命
前警視權重顯從二品張宇根は今回警視に任せられたるが共に地方警察勤務を命ぜらるゝ筈尙河野濟之助は警部に任せられ咸興警察署勤務を命ぜられたり

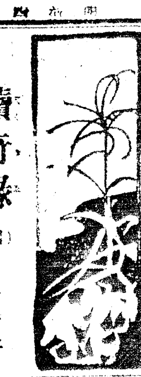
●辭令 (廿七日)
任統監府法務院書記 早川保次
八級俸下賜

本日の集會

●日本メソヂスト教會 旭町名古屋城内
朝十時半 活ける信仰 木原牧師
夕七時 我が神 同人
●日本基督教會 旭町四丁目
朝十時 唯一無比の人格 石原牧師
夕七時半 罪惡觀 同人
●京城基督教會 日の出町
罪惡の倫理 宗像鴨四郎
教會の組織 米澤牧師
●西本願寺 長谷川町
[illegible]
●南山本願寺にも午後七時より說教ある筈

近事片々

▲李俊鎔君近來兎角放逸に耽けらるゝとの事なるが何か心中面白からざる事あるにや
▲俊鎔君も亦政權に渴せる一人雄心勃々たるも之を伸ばすに由なき爲にあらざる乎
▲俊鎔君日本に流寓せる頃は抱負もあり經綸もあるが如くなりしに還國以來振はず
▲流石は故大院君の衣鉢を傳へたりと思はるゝ節もありしが現時の擧動は惜しも
▲大院君は能く隱忍することを知れり其發動すべき機をも知れり君何ぞ自重せざる
▲俊鎔君たるもの今は自重すべき時也如何に政權に渴するとも決して悶々す可らず
▲一進會近來大韓協會の行動に激して同協會を非難するも誰か烏の雌雄を知らむや
▲而も大韓協會解散の決議をなすとは本氣の沙汰ならず何ぞ自會解散を決議せざる
▲韓國には今や朋黨結社の必要なし大韓協會も一進會も總ての結社を解散すべき也
▲伊藤統監の歸任に依りて韓政客等何事か新局面の展開を期待すれ共失望せざる乎
▲統監兩宮に參內して韓太子の新消息を奏し兩宮共に御滿足にあられし事ならん
▲統監公の御信任益々厚きと共に統韓政治の發展を得らるゝ事を望むの情や切なり
▲金允植氏統監の歸任によりて喜色滿面に溢るとは京童の言ひ草なるも事實は如何
▲金嘉鎭等の元老連之を名殘りの內閣を組織すべしとの說專らなるも何さなく怪し
▲兎に角鉉暫らくは漢城政界も活氣を帶び來るべし現內閣前途の運命玆に定らん乎
▲統監府縮少問題はチラホラ持上る伊公果して之を斷行する乎亦此儘に經過する乎
▲總務長官職は此際斷然廢するを可とせずや之れなくも別に差支るが如き事はなし
▲伊藤公の身邊には常に統監辭任の風說付纏ると如何なる因由ありて然るや訝し
▲世には風說を起して獨り喜ぶ彌二馬的[illegible]



續奇緣（四） ひで子

「突出された紙入に、楢の金太も悔乎としたね、ヘイ、で貴孃は…………氣が利か無い事夥多しい、すると」「妾、爲替よ、これから成る…………」[illegible]聞いた、其家號が急所々々で、私も涙を出しましたよ、お時間に三十圓呉れた、で、「其紙入のお金を使はず、此三十圓で、立派な人に、生れ變れさ、[illegible]

尋ねて、自家は入谷でした、他人の住んでるに直ぐと其足で、朝鮮へ來たんです、夫れから、苦勞を仕盡して、今じや御承知の身分に成たんです、紙入は其時の金の儘で未だに、大切に持つて居ります」

女は乾と顔を上げて、金太の顔を凝然と視て居たが、慥いた口調で、

「お家は入谷、失禮乍ら、何御商法でした」

「何、植木屋さ、五郎吉と謂つちや、一寸好い方の腕でした、夫れが親父…………」

「まあ、貴郎、貴郎は兄さんだよ、あの、本個の兄さん…………」

「ゑ、」

男二人は、驚きの眼を視張つて、女の顔を視詰るのみ、

「妾は妹のお菊ですよ、モウ十五六年前だから、判らないも、無理は無いが……」

「お〻妹か、お前がお菊か…………」

楢の金太の涙に呉れるも無理は無い、今は好個の紳士の態度だ、

●寒牡丹 ……有爲轉變は世の習ひ……

時は維れ明治三十七年二月日露の外交端なく爆發して仁川港頭の海戰となるや我軍愛に動きて幾萬ハ貔貅幾百の艨艟各々出征の途に就きしがタカの實兄重太郎も麻布聯隊より戰地に向ふこと〻なり四月十二日[illegible]しき兩親と愛き妹と生別死別の盃を酌み交はし思ぞ殘る貧困の一家を後にして東京を出發せしが後に殘りし一家のものは明け暮れ重太郎の身の上を氣遣ひ新聞の號外に世間の噂さにもし敵の爲めに敢なき最後を遂げはせずやなど心の休まる間とてはなく神佛に掛けて武運の安全を祈り居りしも水の泡膝て翌年の春を迎へしとき第一軍の參謀より重太郎には奉天の激戰の際南方高地魚鱗堡に於て敵彈に當り名譽の戰死を遂げられたりとの訃報に接せしかば兩親及タカの悲嘆は譬ふるに物なく程經て到着せし遺骨に取り縋りて泣き崩れしぞ實に哀れもいぢらしけれ

折柄東都は彌生三月の花盛り忍ヶ岡向ふ島の櫻は霞と棚引き霧とまがふ心滿都の士女は花に浮かれて恰も狂はん許り人の心を知るや知らずやれたかの友だち誘れ彼れもれたかを誘ひて飛鳥上野と浮れ回はり男女入れ混りての鬼ごつこも年一度の氣晴らしとたれかはいつしか悲みの雲の薄らぎ行きて今はいつもの如く時間通りに家には歸り來らずのみならず偶には他へ泊ることもあるより兩親は不審に思ひダン〜樣子を探り見し所れたかには其の時既に重太郎の友達にて砲兵工廠の職工伊藤とかいふ男と割なき關係をぞ結び居りしぞ淺猿しけれ（つゞく）

●死骸となつて歸る ……妻女の愁嘆……

中部[illegible]居留民[illegible]人力車夫吳尹行の妻李姓[illegible]し屆け出づるや自分の夫吳尹行といふが昨日仕事に出で行きしま〻今に至るも歸り來らず何れに在るやら尋ぬるに由なければ警察のお力で詮索し呉るやうとのことに警察にても氣の毒に思ひしが話し變つて之より先き警察にては南山の老松に韓人の勞働者らしきもの縊死し居りしを發見せしかばもしソの者にては非らざるやと爲念女に質したるに何うやら女の言ふことが符合し居るより早速死体をば女の前に運び來りて示せしに正に吳尹行に相違なきより妻は涙に搔き暮れ死骸を引取りて悄々と家に歸りたりといふ

●此も一種の病氣（か） ……竊みたいといふ癖……

仁川本町四丁目小野久治の長男給（十二）といふはまだ乳臭き少年にも拘はらず之れ迄數回の竊盜を働き度々仁川警察署の手を煩はしたる惡少年なるが一昨日同人は親の知らぬ間に無斷外出し行衞不明になりたるより兩親は又例の病氣が起つたも……かと心配し心當りの家を尋ね回りたるが一方給は家出はせしものゝ身に一錢の金もなく差し當り食事を爲すことも出來ざるより爰に又々惡心を起し仁川小學校に忍び入り生徒が大事に仕舞ひ置ける學校用品をば數十點竊取し其の足にて韓人某方に赴き相當の値段に賣却して早速買ひ喰ひを爲し居たる處を發見されて兩親よりの依賴に接し居りし仁川署の警官の爲めに認められ直ちに本署に引致しコン〜說諭を加へたる上兩親を呼び出して引き渡したる由さるにても兩親たるものは將來の薰育法に意を用ふべきなり

●列車内の盜難

事少しく舊聞に屬すれど本町裏通三丁目瀨尾等といふものが去る二十三日午後九時五十分南大門發の滊車にて水原に赴かんと手荷物をば赤帽に托し列車内に運ばしめたるに不思議なことには同人が便所に行つてる間に右の荷物が殘らず何者にか盜まれ居るより同人は打驚き其の旨早速驛長に訴へ出で更に警官の手を煩はしてソレ〜取り調べたるも更に手掛りなしといふ困りもの[illegible]被害價額は二百圓以上なりといふ

●女房を賣り飛ばす

西部蛤洞八十二統蔡聖禹（二六）といふは今より二ヶ月程以前世話する人ありて同部阿峴居住韓姓女（二〇）といふ女を嫁に貰ひ受け其の當座は仲睦まじく暮し居りしが元來此の蔡といふは浮氣な性質にて此れ迄も二三人の嫁を貰ひしことありしも直ぐ飽きが來して離緣するといふ厄介な男なるが案の通り月日の經つにつれて新來の妻にもろ〜と厭氣が差し時には酩酊の餘り撲つ蹴る毆るといふ手荒き仕打を爲すにぞ妻も愛想を盡かし實家に歸らんと思ひしことも一度や二度ではなかりしかど流石は女心の斯うと決心附き兼ね泣きの涙で其の日を送り居る中蔡は有らうことか有らまいことか妻をば同部阿峴中の[illegible]に前借九十圓にて賣り飛ばし其の金を持つて放蕩三昧に耽り居ることを妻の兩親が聞き知り其の不都合を詰りしも蔡は一向平氣にて「彼の女は俺れは嫌ひだ貰つたものを賣つたが何處が」とてんから話にならぬより父は一昨日其の筋へ蔡を相手取り訴へ出でたりといふ

●店員評判記

大上雜貨店員 磯部峰松氏

氏の家は代々農家である、されど氏は幼少の頃より農業を嫌ひのみならず、[illegible]を肩にして碌々草深き片田舍に埋れんよりは、矛筆を執つて實業界に乘り出した方が[illegible]出世の上から[illegible]るといふ者へから、兩親にも此希望を述べて土地の某商店に奉公しヒビ、皸の刻苦を積み聽て目的通り一廉の商人となつたのであるそれより志す所ありて韓國へ渡つたのが卅七年の八月、直ちに入つて大上商店の店員となり、次で幾干もなくして營業主任の重任を帶び、現今にては同店の大黑柱となつて居る、生れ古郷は山口縣豐浦郡五司村、人となり廉直にして而も大膽、今年卅五歲の男盛りである

同店員 淺野虎助氏

氏は現今大上商店の販賣主任である、當年三十歲、元氣潑剌、常に活動を好み、奇智縱橫、喜んで難を解くは氏の特質である、磯部氏とは同店の連璧として居然商權を握り、相倚り相援けて店運の繁榮を計つて居る、郷國は山口縣厚狹郡吉田村、夙に普通學を修め次で商業の中心點なる大阪に赴き某商館に勤務し專心外國貿易の實務に當り大に斯道の經驗を積んだ結果何處へ出しても恥しくない程の商館員となつたのであるされど氏の性質たる反面に於ては最も愼重にして周密伸びんと欲すればまづ屈する的の主義であるから容易には進まず、徐ろに將來の大成を計らんとする所から暫く實務訓練の必要を認め渡韓して大上商店へ入つたのが三十六年の春である

同店員 大西知造氏

氏は三十七年六月渡韓し直ちに入つて大上商店の店員となつたのである現今の地位は會計係り算筆は却々達者なものだソレに客扱ひが極めて上手で且つ商賣の仕振りが活潑で何となく景氣が宜い餘程圓の家庭が正しいものと見ねて行儀作法は嚴格なものだ原籍は阿波の國德島縣本年徵兵適齡である

●他人の自轉車を賣り飛ばす

本町一丁目檜田彌三郎といふは四五日前其知人なる前相生町十六番地羽多野琢磨より自轉車の賣入れ方を依賴されウンと承諾せ[illegible]某日本人に四十五圓にて賣り飛ばし羽多野へは二十五圓で賣入れしたと虛言を吐きしことがいつしか發覺し羽多野は其の旨一昨日西部署に訴へ出でたり

同可娛欄（廿六） 魚友痴史

痴史這度生活難てふ大問題に遭遇し大いに感ずる所あり同可娛欄を撤廢して滑稽界を脫し浪風荒き官海のドン底に沈沒す即ち辭世の狂歌一首

悲しさよ盈れは虧くる月々の
給料取りの飯米ならぬ身は

●放●多●良●歌●誌●（一）

△はしがき

魚友痴史何を感ずツてか突然厭世觀を起し辭世の狂歌を一首を殘して底深き官海の藻屑と消へ失せぬソコデ此坊主が痴史の菩提を吊ふ爲め同可娛欄の跡釜を引き受け今より更らに放多良歌誌どれ題目を改め口から出放題の狂文を讀み上げ奉る……エヘン

鮮亂山放任寺の徒弟 釜椀坊

世の俗人は吾を無能力と嘲罵らん
滑稽駄洒落は〻く痴瘋癲

●不心得な酌婦

朝鮮三界まで出稼ぎするからには普通尋常の手段や方法では到底甘い金儲けは出來ず少し位惡い事をして見て見ぬふりは相互樣と自分勝手な胸算盤甘くいつたら御手拍子と種々雜多な罪惡仕事が到る處の人に依つて行はれ居れる事なれば酌婦の夜逃げや駈落ちなどは何んでもない事なり此所西部照義門通り飲食店野村ツチ方に去月廿六日八十圓の前借で酌婦となり誤娼賣なりの稼業稼ぎに住み込みたる福岡市博多上赤間町七番地藤本ナミ（二三）といふ一皮むけば怪物然たる白首は何時の間にか男を拵へたるか男女の者は兼ねて申し合せ置かりしか一昨日の午後十時過ぎ[illegible]の鐘ならゴーンと鳴ろうといふ時分一寸差し買物に行くよと言つて出たまゝ世間に[illegible]いものだ心配無用跡白波と駈落したそうだ

●羽衣町の出火

一昨廿七日夜八時頃羽衣町鐵道十合正程方の溫突より出火し將に大事に至らんとせしが幸ひに附近を通行中の憲兵上等兵三吉環及び石井明朗、藤赤愛の三名は走せ付け韓人を指揮して消防に盡力し消し止めたり

●醉漢時計を紛失す

南大門外鐵道官舍三十八號井口梅吉方仲野盛男といふは去る二十四日の月給日を幸ひ受取るが早いか西小門通りの料理屋日の出へ押し上り散財を爲せしはよきも翌朝醉が醒めて枕元を見ると懷中時計がないので大に驚き探索方を其の筋へ願ひ出でたりと

●阿片を喫す

西部西小門內嚴俊源方金引培（二五）は一昨日午後拾一時半頃大漢門通り某清國人方の奧室にて阿片を喫し居りしを西部署の巡査に認められ本署へ引致さる

●敷島の檢黴

昨日仁川敷島遊廓に於いて特別藝妓の檢黴ありたるが受檢者八十一名ありたる中第一高砂樓の相槌は機關部に故障ありたる爲め入院を命せられたる外他には別條なかりしが先頃より入院して療養し居りたる高砂樓の東京は病氣目出度く本復し一昨日退院したり

●三浦商店履物部開業

南大門通り三浦茂三郎氏は今般本町二丁目に履物部を開業し最も嶄新なる履物類及足袋一式を大勉強にて販賣し居れるが却々の盛況なりと

●池田商店の抽籤執行

本町三丁目池田商店にては過日來景品附賣出中なりしが愈々本日午前十時より同店樓上に於て新聞社員立會の上右景品抽籤を執行する由

●壽座今晩の藝題

同座今晩の狂言は「女丈夫」にて重なる配役は左の如し

島井傳作（稻葉）女兒れどか（堀江）齋生吉田新次（常盤）娘れ袖（桂木）兒分金太（吉井）島井源兵衞（松村）ジヨンソン（福井）齋生田村（藤原）刑事山中（佐海）島井傳作妻[illegible]（坂本）支那人（櫻木）ボーイ（島村）女丈夫小野れ園（酒井）

◆無料紹介欄◆

人事部

●呉服商に多年經驗あるもの雇はれたし年十九　氏名在社（一〇五）

●官衙の給仕に雇はれたし年十八　氏名在社（一〇六）

●鐵道院又は軍官衙等の雇員…機關の運轉取扱へ雇はれたし…陸軍一等機關兵年廿六滿…鹿兒島縣人有馬氏の住所を問ふ　同縣人（一〇八）

●料に通ず給料多きを不望　氏名在社（一〇七）

店員入用

雜貨商に經驗ある者數名雇入たし　壽町三丁目今井商店（一一一）

●雇れたし　年三十九中等教育有簿記健病院會社の受附又は商店の帳場員を望む　氏名在社（一一二）

●雇れたし　年廿六身体頑健職業を選はず…　氏名在社（一一三）

●…入用　氏名在社（一〇九）

●看護婦至急入用　明治町一丁目松岡醫院（一一八）

●女子見習生募集　委細面談　本町六丁目中村齒科醫院

●韓語速成教授　本町六丁目六五韓語速成講習所

崎村君　より御親切なる御音薬厚く御禮申上候　石村生（一一五）

下女入用　望の者は本人來談あれ　氏名在社（一一六）

女中入用　裁縫の心得ある人を求む　旭町一丁目競賣所（一二〇）

英韓語無料教授　自午後六時至九時　永樂町三丁目二十一番戸ノ四　上田生（一二一）

二十歳迄の店員五名身元保證人ある者雇入たし　姓名在社（一二三）

●雇はれたし　年廿六西洋料理に熟練旅館料理店又は素人家にてもよし給料不望確實の保證人あり　氏名在社（一二四）

物件部

賣地　本町八丁目通り地所四十坪温突十間建家の儘格安にて至急賣却す　姓名在社（九九）

賣地　京仁線富平停車場近所在上水田四石落安價にて賣却す希望者は至急申込あれ　旭町二丁目京城興信所（一〇二）

便利の場所にして電話の備もあり官吏向き八疊四疊五つ間二階貸間あり電話六五九番に御照會あれ（一一〇）

賄付貸間あり　氏名在社（一一七）

古着　其他御不用品買受けたし　旭町一丁目競賣所（一一九）

貸間　旭町一丁目便利の場所にて六疊二間二階貸しいたし望の方は御來談被下度候　旭町一の六十京仁商會（一二二）

廣告



●新聞料　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾錢
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人　秋山忠三郎
印刷人　高木久馬太
發行所　京城新聞社
京城西署西小門通
電話六六三番